

十勝農業の概要

令和8年4月
北海道開発局 帯広開発建設部

Ⅰ 十勝農業の沿革等

十勝農業の概要 ～ 十勝農業の沿革

- 十勝の開拓は、明治16年(1883年)に北海道開墾を目的として結成された「晩成社」※の帯広入植が始まりであり、明治29年(1896年)以降の殖民地地区画の解放により開拓移民が増加し、十勝全域で本格的な開墾が進められました。
- 以来、寒冷な気候や火山灰質の特殊土壌など厳しい自然条件の中、近代技術の導入、排水改良等の土地基盤整備を進め、今日では日本最大の食糧供給基地として発展しています。



晩成社の開拓移民

十勝開拓の父と呼ばれる
依田勉三(前列中央、静岡出身)

(晩成社は、開拓にかける意気込みから
“大器晩成”にちなんだもの)

出典:帯広市史



十勝の開拓と馬耕

極寒、不毛の地に入植した先人は、馬とともに起居し、
開墾と耕作に励み今日の十勝農業の基礎を築いた

出典:十勝農協連50年誌



てん菜の防除

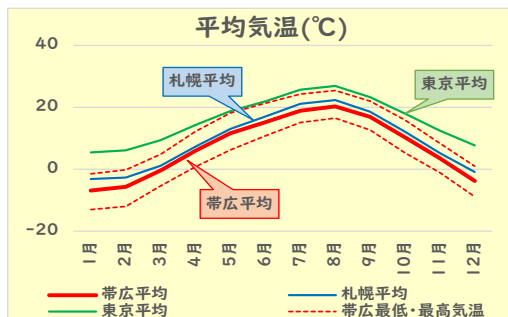


豆の播種

※ 十勝の開拓は、北海道に多く見られる官主導の屯田兵によるものではなく、晩成社をはじめ、富山、岐阜など本州からの
民間の開拓移民により進められた。

十勝農業の概要 ～ 十勝地域の気象

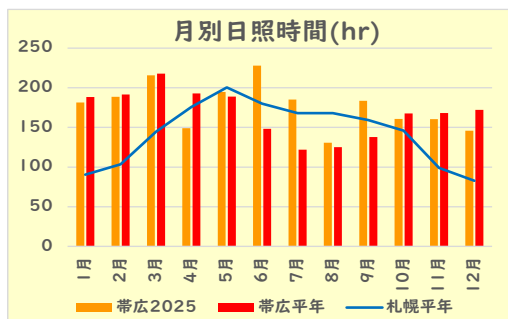
- 夏季は比較的暖かく、冬季は寒冷高気圧（シベリア高気圧）により低温が続き寒さは厳しい
- 日照時間は北海道では最も長く、年間の降水量は少なく、積雪は少ない傾向
- 気象条件から、内陸部は畑作主体の経営が多く、沿岸部や山麓部は酪農経営が多い



平均気温

夏と冬の気温差が大きく、また昼と夜の寒暖差も大きいのが十勝の特徴です。

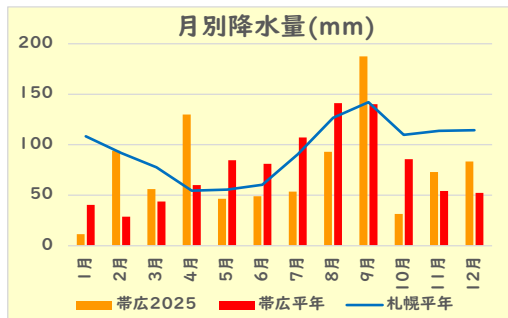
この寒暖差が、農作物の生育を支え、品質や味の良さにつながっています。



日照時間

6～9月は雲の多い日が続く、日照時間はやや短くなります。

10～4月は晴れる日が多く、比較的安定した日照に恵まれています。

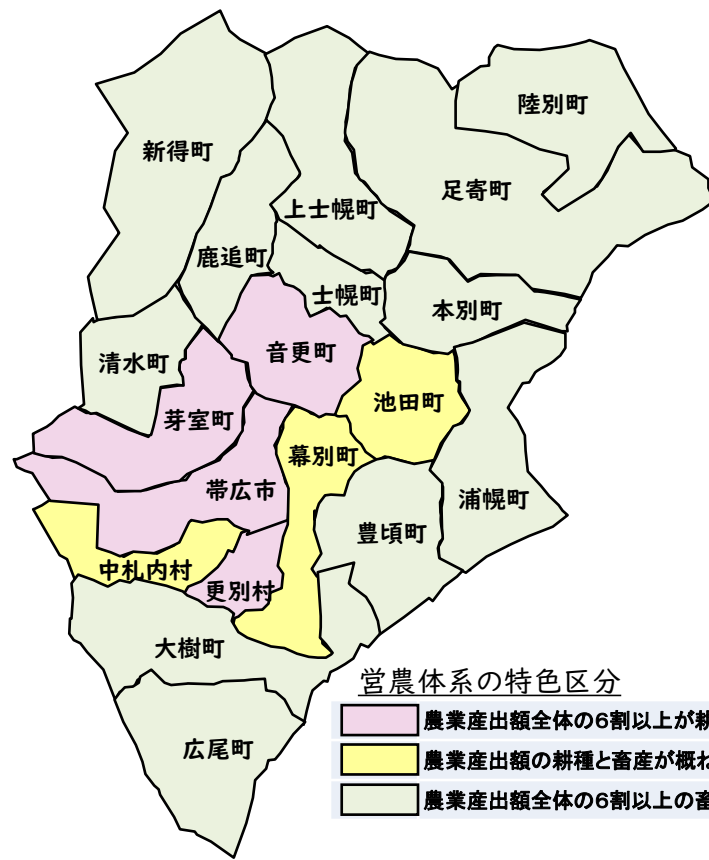


降水量

年間の降水量は比較的少なく、梅雨の影響をほとんど受けません。

近年、十勝では高温や少雨の年も見られることから、水管理の重要性が高まっています。

市町村別の営農特色



(出典:気象庁観測データ平年値1991-2020他)

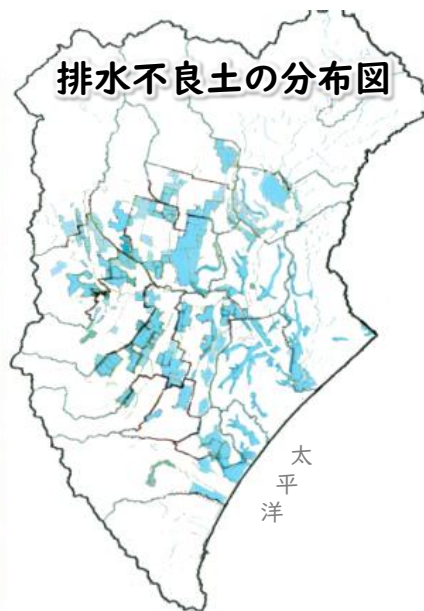
十勝農業の概要 ～ 十勝地域の土壌

- 十勝の土壌は、主に近隣の火山から噴出した火山灰が幾層にも降り積もり、これを母材とした平地部の「黒ボク土」と、河川周辺などの標高が低い場所に分布する「低地土」が広くみられます。
- 一方、火山灰の降灰の少ない東北部の台地・丘陵部では、重粘な「褐色森林土」や「灰色台地土」が見られ、これらは排水対策など物理的な改善が必要な土壌が広く分布しているのが特徴です。

土壌の分布図



排水不良土の分布図



湿害発生区域の分布図



黒ボク土とは・・・

十勝管内の代表的な農地の土壌は、黒々として肥沃そうに見える黒ボク土が多く分布していました。

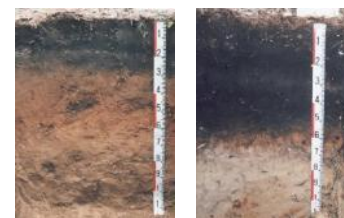
黒ボク土は、リン酸が土に強く吸着され、作物が吸収しにくく、湿性土壌でもあることから、農地利用には困難が伴う土壌でした。

現在、**土壌改良資材の投入**と**土地改良事業**などによる**排水改良**により、**広大な優良農地**に生まれ変わっています。

黒ボク土の分類・・・

平地に降り積もった火山灰に、植物が積み重なり微生物によって分解された真っ黒い表層を黒ボク土と呼びます。この表層部が薄く、下層の多くが褐色となる乾性土壌が「淡色黒ボク土」と分類されます。

一方、排水不良で腐植の分解が進まず、真っ黒な層が厚く蓄積した湿性土壌のうち、特に湿害の原因となる土壌は「多湿黒ボク土」に分類されています。



淡色黒ボク土

多湿黒ボク土

【参考】十勝地域の農地区画

- 整然と並ぶ十勝の農地区画。そのルーツは、明治時代の開拓期に定められた「殖民地区画」です。
- 農業基盤の整備と持続的な営農により、格子状の「耕地防風林」とともに維持保全され、十勝を象徴する「壮大なパッチワーク景観」が形成されています。

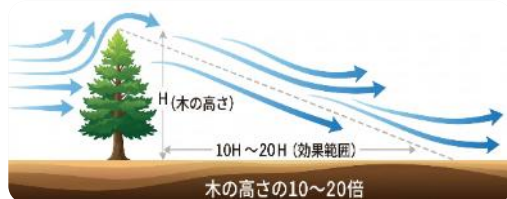
○ 殖民地区画と防風林の美しい十勝の農村景観



写真：(一社)北海道土地改良設計技術協会主催の「北のフォトコンテスト」入賞作品

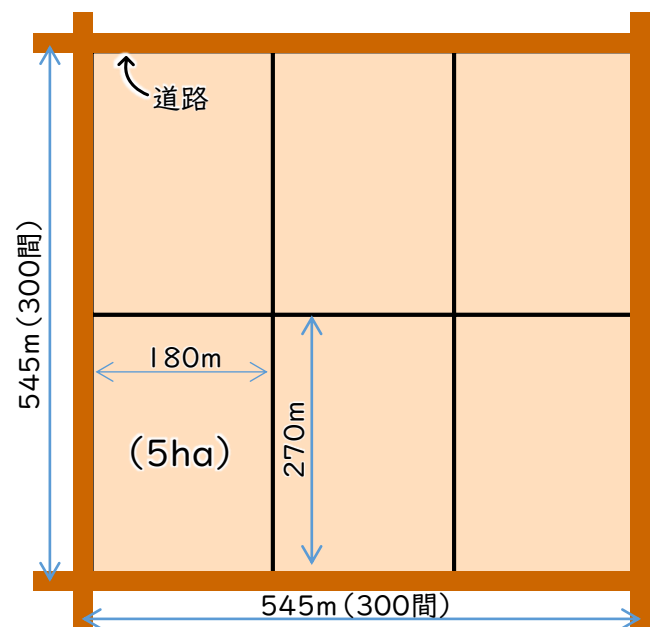
耕地防風林の効果……

耕地防風林は、樹高の10~20倍の範囲で、風速が3~5割程度抑制されるといわれます。この効果として、強風による作物の倒伏防止、表土流亡や農薬の飛散防止、環境・景観保全など多面的効果を発揮しています。



殖民地区画とは……

標準的な農地区画(300間区画~545m×545m)



殖民地区画(300間グリッド)の成り立ち

- ✓ 明治時代、それまでの地形任せの開墾から、1辺を300間(545m)の格子状の区画とする、画期的な計画手法による開墾が行われたものです。
- ✓ この1区画を約30haとする広大な区画割が、現代の大型機械化農業にも対応した、十勝農業の強みになっています。

【参考】十勝地域の農村景観



2 十勝農業の概要

十勝農業の概要 ～ 耕地面積と主要作物

- 耕地面積は、25万4千haと広大で、北海道内の約3割（28%）、全国の約8分の1（13%）を有している。
- 農作物の作付面積割合は、小麦、豆類、馬鈴しょ、てん菜の畑作4品と野菜が大半を占める一方、飼料作物も約4割を占めており、畑作と畜産が一体となった農業構造を形成しています。

耕地面積(畑)～十勝と道内及び都府県上位比較（令和7年）

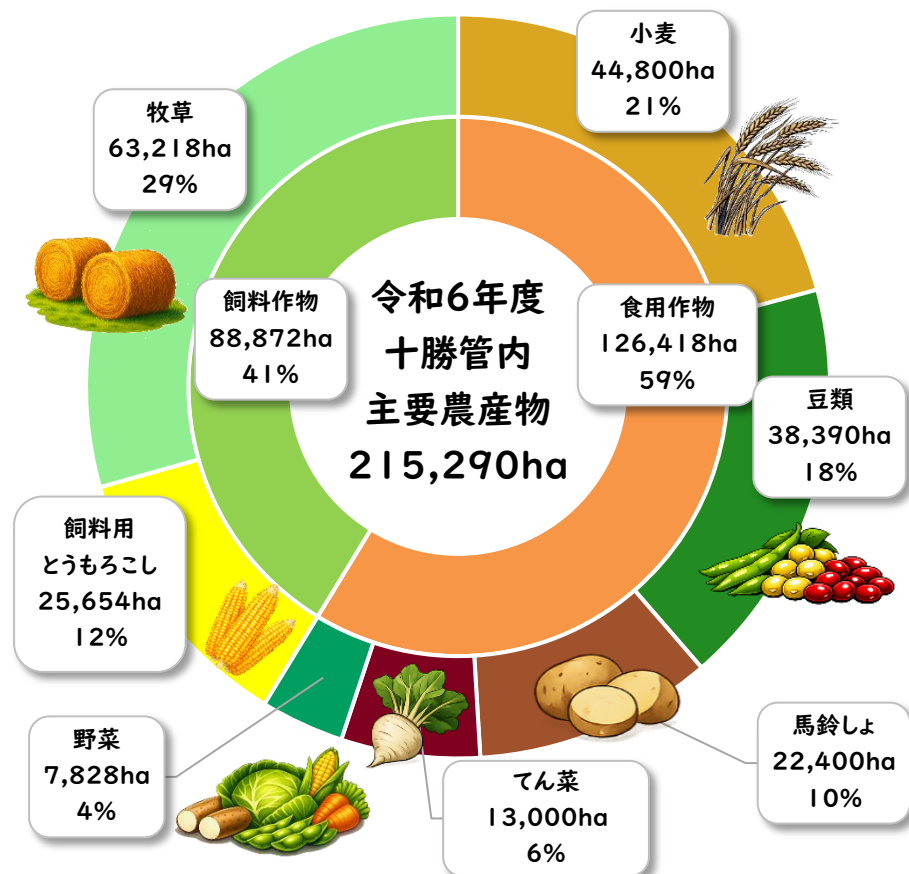
順位	都道府県	シェア	面積	備考
-	全国	100.0%	1,939,686 ha	
-	北海道	47.1%	913,805 ha	
1	十勝	13.1%	253,680 ha	道内1位
2	オホーツク	8.4%	163,540 ha	道内2位
3	根室	5.6%	109,404 ha	道内3位
4	鹿児島県	3.9%	76,330 ha	
5	青森県	3.6%	69,203 ha	

耕地面積～十勝と道内及び都府県上位比較（令和7年）

順位	都道府県	シェア	面積	備考
-	全国	100.0%	4,240,017 ha	
-	北海道	26.7%	1,132,626 ha	
1	十勝	6.0%	254,410 ha	道内1位
2	新潟県	3.9%	165,954 ha	
3	オホーツク	3.9%	165,180 ha	道内2位
4	茨城県	3.7%	156,482 ha	
5	青森県	3.4%	145,884 ha	

※ 水田を含む耕地全体の面積

十勝管内の主要農作物の作付面積割合



資料：農林水産省統計部「耕地及び作付け面積調査」より記載の主要農産物を集計。
（全ての農産物の集計ではない事から、耕地面積（総計）とは合致しません。）

資料：農林水産統計部「農林水産関係市町村別統計」より集計。

十勝農業の概要 ～ 農業経営体

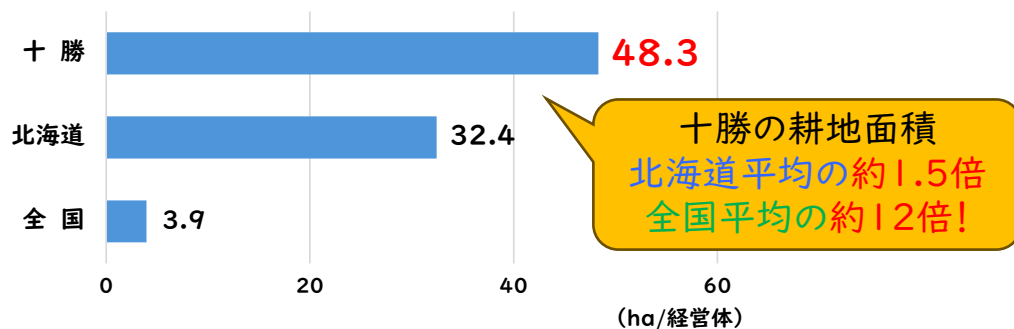
- 十勝地域の農業経営体数は 5,266 経営体で、北海道の15.1% (全国の0.5%) を占める
- 十勝の農業経営体は、2010 年からの10か年で16.4%減少 (1,035経営体減)
- 十勝は経営体数こそ全国比で少ないものの、1経営体あたりの耕地面積が大きく、大規模経営によって地域農業を支えています。

農業経営体数(令和2年)

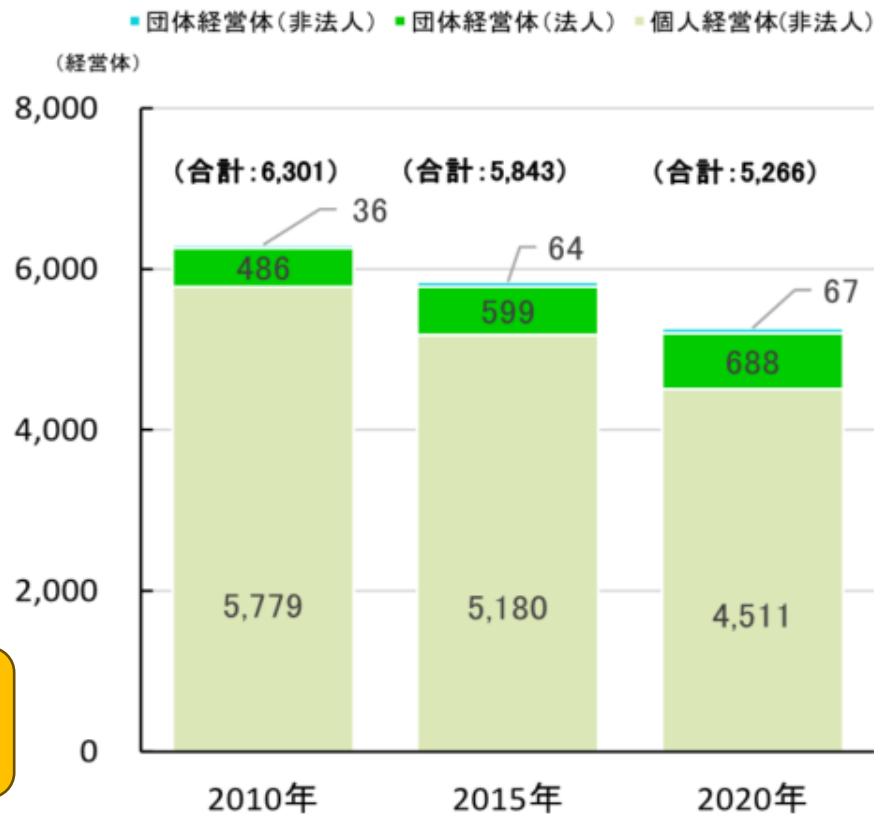
経営体数の全国上位との比較

順位	都道府県名	シェア	経営体数	備考
-	全国	100.0%	1,075,705	
1	茨城	4.2%	44,852	
2	新潟	4.0%	43,502	
3	長野	4.0%	42,777	
4	福島	4.0%	42,598	
8	北海道	3.20%	34,913	
	(十勝)	(0.5%)	(5,266)	道内3位

農業経営体当たり耕地面積の比較



農業経営体数の推移(十勝)

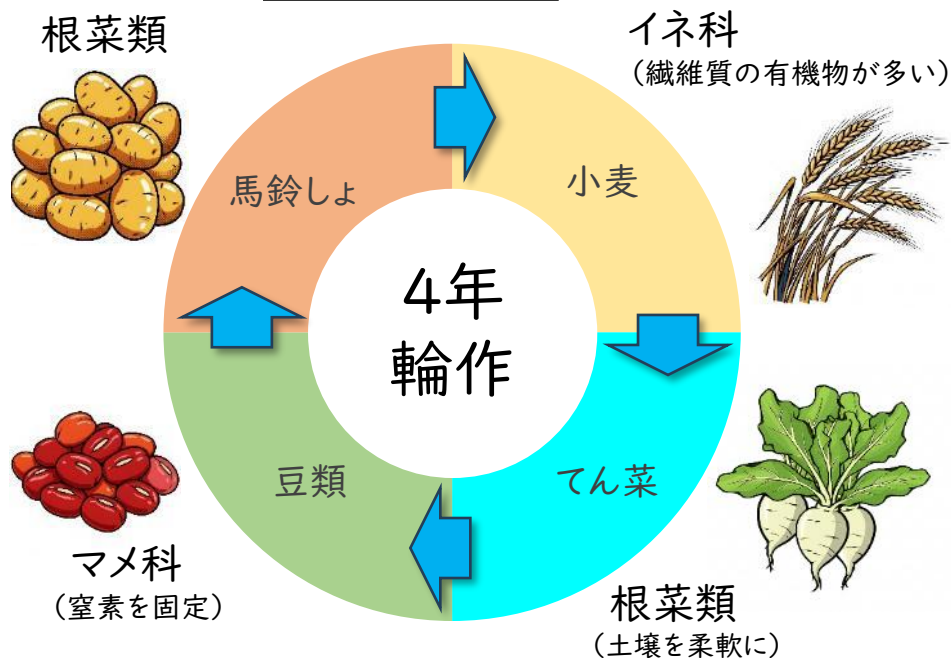


資料: 農林水産省統計部「農林業センサス」

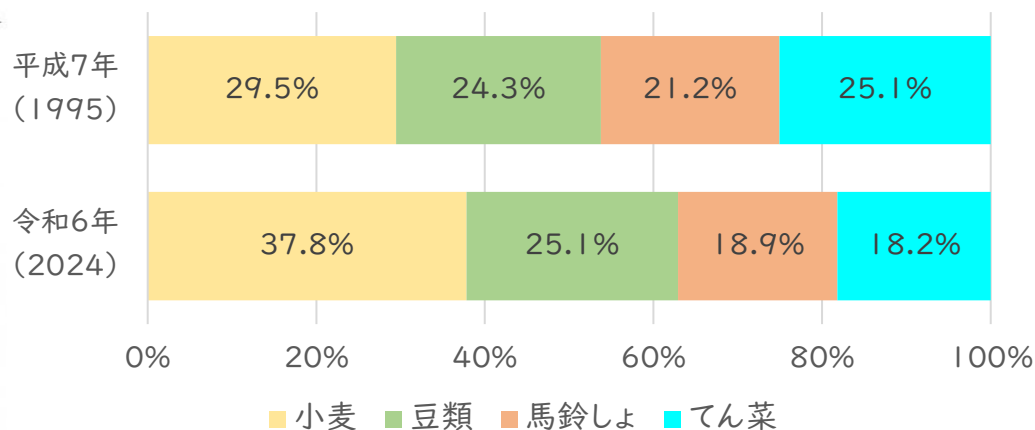
(参考) 十勝地域の輪作体系

- 北海道畑作は、小麦、豆類、馬鈴しょ、てん菜の4作物を中心としており、十勝では4年輪作の作付け体系を基本に、野菜や緑肥作物を取り入れた輪作が行われています。
- 近年では、てん菜、馬鈴しょの作付面積が減少し、小麦の作付面積が増加していることから、連作障害の防止等の観点においても、適正な輪作体系を維持することが重要となっています。

十勝の輪作体系



十勝の主要畑作4品の作付割合の推移



畑作物の輪作とは……

同じ畑で同じ作物を続けて栽培する連作に対し、輪作とは、異なる作物を一定の順序で繰り返し栽培する方法です。輪作体系を維持することで、作物ごとの養分吸収特性の違いを活かし、土壌の栄養バランスを整えるとともに、特定養分の偏在や不足を防ぐことができます。

また、病害虫の発生を抑制し、連作による生育障害を防ぐことで、安定した収量の確保が期待されます。

十勝農業の概要 ～ 農業産出額

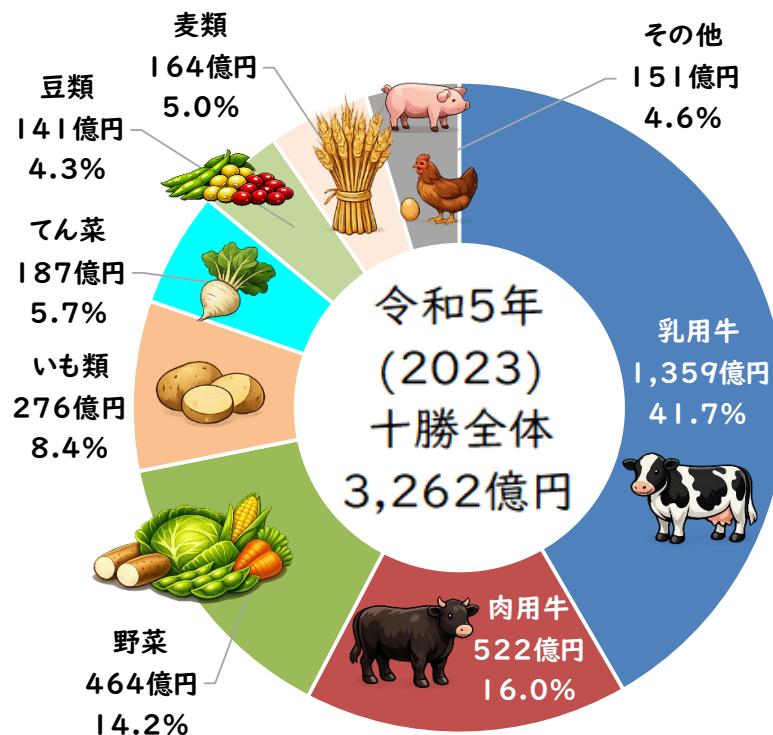
- 十勝地域の農業産出額は、約3,262億円 (R5)と北海道の約1/4を占める
- 耕種部門は畑作物と野菜が、畜産部門は生乳と肉用牛の生産が主となっている

農業産出額(令和5年)

農業算出額(都道府県との上位比較)

順位	都道府県名	シェア	金額	備考
-	全国	-	94,717 億円	
1	北海道	14.2%	13,476 億円	
-	(十勝)	3.4%	3,262 億円	道内1位
2	鹿児島	5.7%	5,401 億円	
3	茨城	4.7%	4,417 億円	
4	千葉	4.2%	3,990 億円	
5	熊本	3.9%	3,728 億円	

品目別農業産出額の割合(令和5年)



出典:農林水産省統計部「市町村別農業産出額(推定)」

注)その他には、米、雑穀、果実、花き、その他作物、畜産(豚、鶏、その他畜産物)が含まれている。



十勝農業の概要 ～ 農産物（畑作4品）

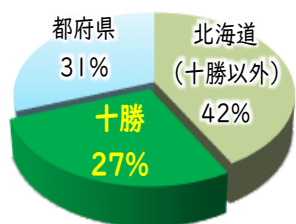
- 十勝の畑作物は、「小麦」「馬鈴しょ」「豆類（大豆、小豆、いんげん豆等）」「てん菜」の畑作4品を中心に、大規模な畑作経営が展開されています。
- これら主要作物において、十勝は全国生産量の大きな割合を占める、日本を代表する畑作産地です。

十勝の主要作物 全国及び北海道との生産量比較（R6）

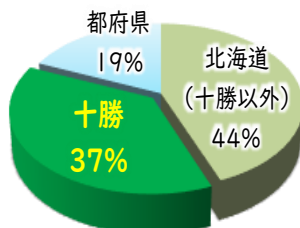
区分	小麦	馬鈴しょ	大豆	小豆	いんげん	てん菜
全国	1,029,000 t	2,295,000 t	252,400 t	46,700 t	5,650 t	3,485,000 t
北海道	714,200 t	1,870,000 t	132,400 t	45,300 t	5,380 t	3,485,000 t
北海道の割合	69.4%	81.5%	52.5%	97.0%	95.2%	100.0%
十勝	282,000 t	858,700 t	41,100 t	29,936 t	4,063 t	1,586,000 t
十勝の割合	27.4%	37.4%	16.3%	64.1%	71.9%	45.5%

資料：農林水産省「作物統計」「特定作物調査等」

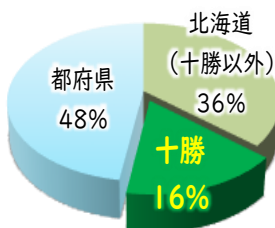
小麦 生産量（R6）



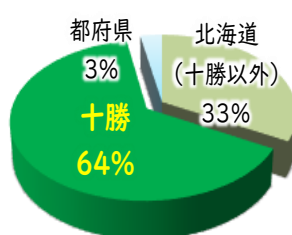
馬鈴しょ 生産量（R6）



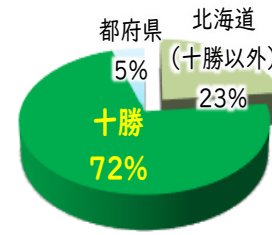
大豆 生産量（R6）



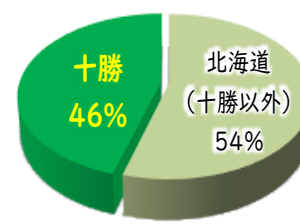
小豆 生産量（R6）



いんげん 生産量（R6）



てん菜 生産量（R6）



十勝農業の概要 ～ 農産物(小麦)

- 十勝地域の小麦は、**国産の1/4をシェア**する一大産地です。
- 栽培されている品種は、厳しい冬を乗り越え生育する「秋まき小麦」の「**きたほなみ**」(主に薄力粉や中力粉の**主原料**)が主流となっており、「ゆめちから」(中力系品種とのブレンドで優れたパン適性を発揮する**超強力系品種**)も栽培されています。
- 小麦は、管内の各農協で乾燥、調製された後、主に道外向けは広尾町十勝港広域小麦流通センターのサイロに貯蔵され、都府県への輸送はバラ積貨物船を利用して、各地の製粉工場に出荷されています。

小麦の種類・用途・主な品種

小麦粉の種類と用途

種類	主な用途	タンパク質量
強力粉	パン	11.5～13.5%
準強力粉	中華めん	10.5～11.5%
中力粉	うどん	8.5～10.5%
薄力粉	菓子	7.0～8.5%

小麦の用途別割合

用途	割合	備考
パン用	27%	
めん用	32%	
菓子用	5%	
その他	36%	みそ・焼酎他

区分	品種名	用途(適正)
春まき小麦	春よ恋	パン 中華めん 餃子の皮
	はるきらり	
	ハルユタカ	
秋まき小麦	きたほなみ	うどん、 パン、菓子
	ゆめちから	パン
	キタノカオリ	パン、中華めん
	つるきち	中華めん



大型コンバインによる小麦の収穫、麦乾燥貯蔵施設
(写真:JA芽室より)

小麦の品種別作付け面積

	R4産	割合
秋まき小麦 計	41,173 ha	(97.9%)
きたほなみ	36,813 ha	(87.5%)
ゆめちから	4,046 ha	(9.6%)
キタノカオリ	262 ha	(0.6%)
その他	52 ha	(0.1%)
春まき小麦 計	888 ha	(2.1%)
春よ恋	458 ha	(1.1%)
はるきらり	425 ha	(1.0%)
ハルユタカ	5 ha	(0.0%)
小麦 計	42,061 ha	(100.0%)

小麦品種「きたほなみ」

地域の主要品種であった「ホクシン」よりも収量が2割程度多く、穂発芽耐性や耐病性にも優れていることから、2006年に北海道の優良品種に認定されています。

品質では粉の色、うどんに加工したときの色と食感が良好で、製めん適性が優れており、パンや菓子用などにも幅広い用途の原料となっています。



国内最大級の農協サイロ
(農協サイロ株式会社)

十勝農業の概要 ～ 農産物(加工:馬鈴しょ)

加工食品用(令和4年産の事例)

- 管内の馬鈴しょ作付割合の約46%は、管内の大手加工食品工場などにて、ポテトチップ、フレンチフライ、コロッケなどの原料となり全国に出荷されています。



フライドポテトの製造
(写真:JA士幌HPより)

管内の馬鈴しょ加工用の一例

用途	品種	工場	主な加工品
ポテトチップ用	トヨシロ、きたひめ	JA士幌	ポテトチップ、フレンチフライ、コロッケ
フレンチフライ用	ホッカイコガネ	JAめむろフーズ	フレンチフライ、サラダ
コロッケ用	男爵薯	カルビーポテト	じゃがりこ、ジャガビー、マッシュポテト
生食用	メイクイン		

でん粉原料用(令和4年産の事例)

- 管内の馬鈴しょ作付割合の約20%は、馬鈴しょの収穫が始まる8月下旬から11月上旬に、管内のでん粉工場で「でん粉」の原料となっています。
- 管内のでん粉工場は、士幌町のほか、浦幌町と中札内村などにも設置されており、広い十勝の農地で収穫された馬鈴しょからでん粉が製造されています

馬鈴しょが片栗粉?

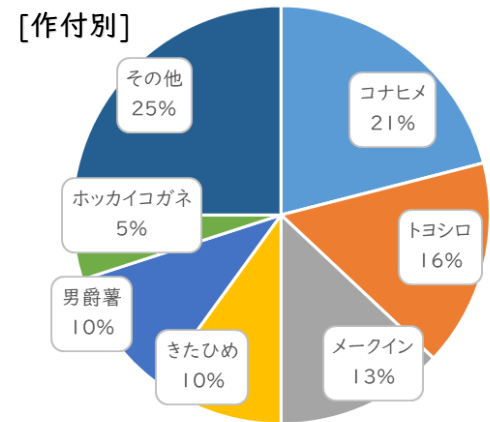
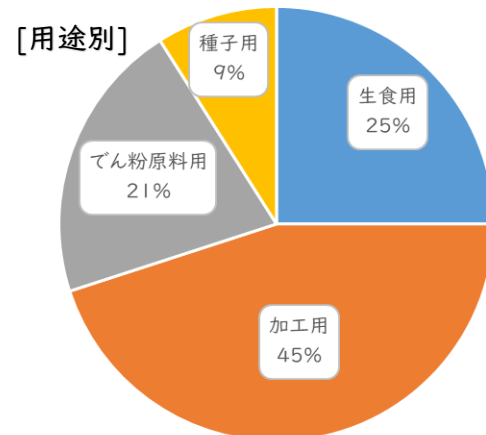
片栗粉とは、もともとはカタクリという植物の根茎から取れるデンプンを粉にしたものです。

現在、市販されている片栗粉のほとんどは、馬鈴しょのでん粉が原料になっています。

料理のとろみ付けや、揚げ物の衣、和菓子などにも使われ、幅広い料理で活躍します。



十勝産馬鈴しょの作付割合(令和5年度)



(北海道農政部調べ)



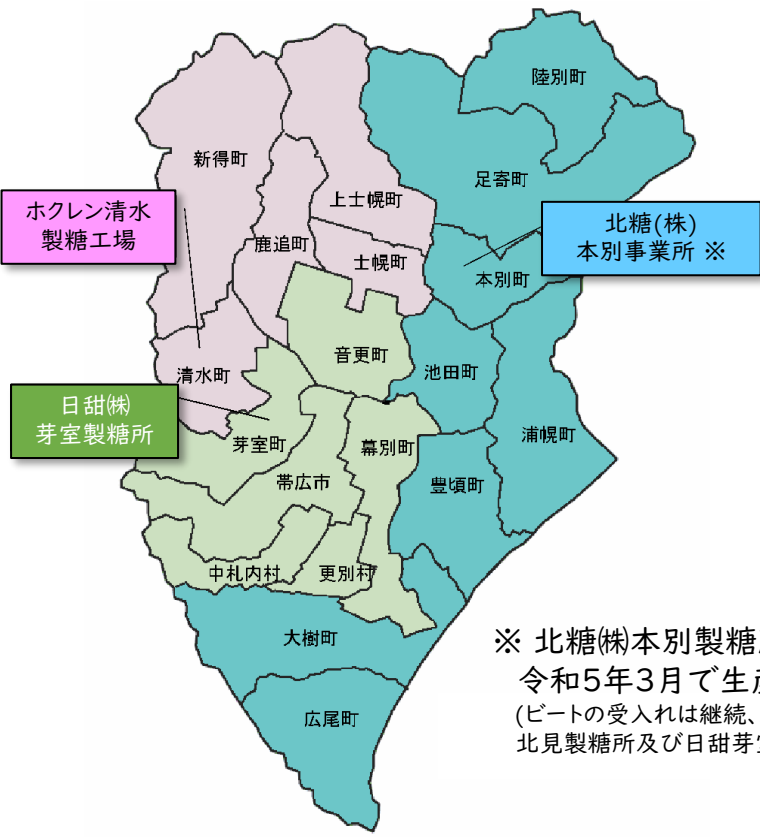
トヨシロの特徴

- ポテトチップなどの加工に適する
- 形が良い
- 多収

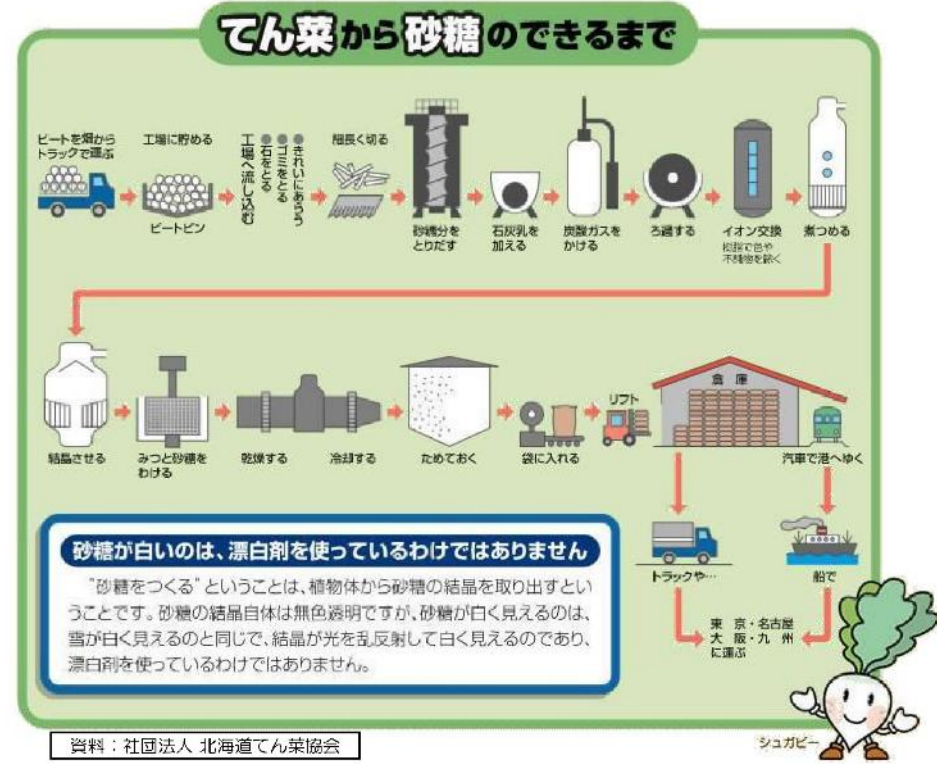
十勝農業の概要 ～ 農産物（加工：てん菜・製糖）

○ 十勝地域には2つの製糖工場と1つの事業所があり、10月中旬から24時間操業で、道内の5割に当たる**28万tの砂糖**（原料180万t）を生産しています。

製糖工場の位置と原料の集荷区域



※ 北糖(株)本別製糖所は令和5年3月で生産終了（ビートの受入れは継続、製糖は、北見製糖所及び日甜芽室に委託。）



砂糖が白いのは、漂白剤を使っているわけではありません

“砂糖をつくる”ということは、植物体から砂糖の結晶を取り出すということです。砂糖の結晶自体は無色透明ですが、砂糖が白く見えるのは、雪が白く見えるのと同じで、結晶が光を乱反射して白く見えるのであり、漂白剤を使っているわけではありません。

令和6年(2024年)産てん菜糖の生産実績

工場等名	原料処理量	砂糖生産量	うち原料糖(歩留)	裁断期間	製糖期間
日甜(株)芽室製糖所	1,189,524t (66%)	185,901t	26,708t 15.63%	10/5 ~ 2/23	10/5 ~ 5/26
ホクレン清水製糖工場	317,105t (18%)	47,622t	4,464t 15.02%	10/15 ~ 2/26	10/15 ~ 2/26
北糖(株)本別事業所	296,854t (16%)	46,133t	0t 15.54%		
北見転出分	97,529t (5%)	15,244t	0t 15.63%	-	-
芽室(委託)分	199,325t (11%)	30,890t	0t 15.50%		
十勝合計	1,803,483t (100%)	279,656t	31,172t -	-	-
道内合計	3,484,827t	540,250t	128,780t 15.50%	-	-

北海道農政部生産振興局農産振興課調べ

- * 原料糖：本州の精糖メーカー原料として販売するもの
- * 原料糖数量は、砂糖生産量の内数である
- * 北糖本別事業所で受け入れた原料は、北見精糖所で製糖するほか、日甜芽室精糖所で委託製造している

資料：2025十勝の農業（十勝総合振興局）

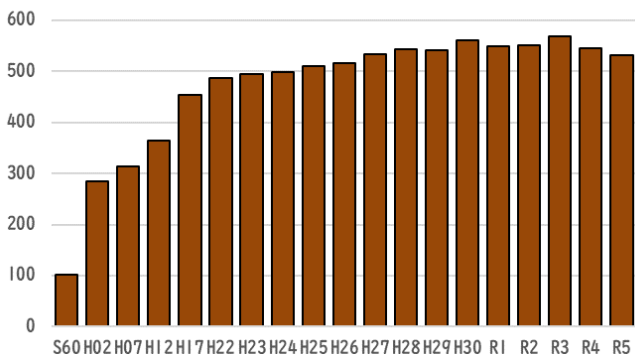
十勝農業の概要 ～ 農産物(野菜)

- 十勝地域の主な野菜(31品目)の作付面積は 10,817ha(R2年)で、露地野菜を中心に栽培
- 近年、農業就業人口の減少傾向が続く中、農業生産と関連産業も含めた生産額の拡大を図るため、各地域で野菜類の導入に取り組んでいる

■ 十勝川西長いも

- ・ 十勝管内10農協で連携して産地を形成
- ・ 国際認証(※)の取得などにより、安全・高品質が証明されたブランドを形成。
- ・ 台湾、米国、シンガポール等への輸出にも積極的に取り組まれています。

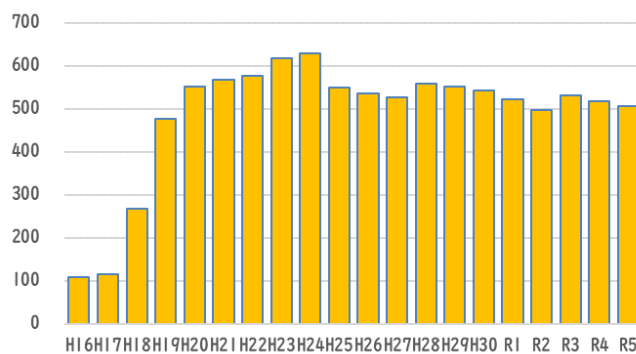
十勝川西長いも作付面積の推移 (ha)



■ おとふけ人参

- ・ JAによる作業受委託方式と収穫後の徹底した温度管理設備により、国内トップクラスの産地を形成。
- ・ 日本全国へ出荷しており、一部は海外へ輸出にも取り組まれています

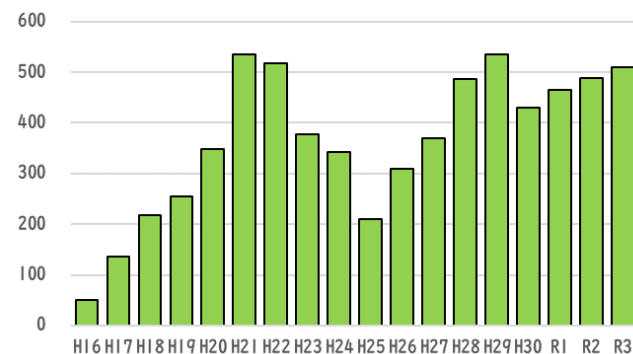
音更町のにんじん作付面積の推移 (ha)



■ 中札内の冷凍枝豆

- ・ 収穫後の3時間以内の製品化など、高品質の冷凍枝豆生産体制が確立。
- ・ オーストラリア、香港、アメリカ及びカナダなど、輸出の販路及び取扱量も拡大しています。

JA中札内えだまめ作付面積の推移 (ha)



国内販売 青箱

2L規格長いも(900g)



台湾輸出用白箱

4L規格長いも(1400g)



※ HACCP認証:工程ごとの品質と衛生管理の国際認証。SQF認証:食品の安全・品質管理の国際認証。GI(地理的表示):産地ならではの名称と品質を国が守る制度。

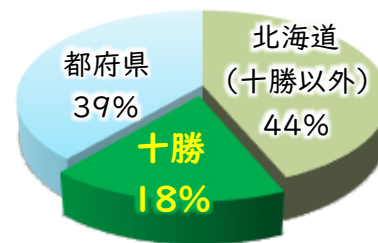
十勝農業の概要 ～ 農産物(畜産)

- 十勝地域の酪農は、畑作ともに十勝農業を代表する存在で、乳用牛の飼養頭数及び生乳生産量は全国の約18%(全道の約3割)と、道内でも主要な生産地域です。
- 十勝地域の肉用牛は、畑作、酪農に次ぐ主要な農産物であり、肉用牛の飼養頭数は全道第1位。十勝和牛、いけだ牛、十勝若牛をはじめとするブランド化を進められており、全国和牛能力共進会の開催地※としても選定されています。

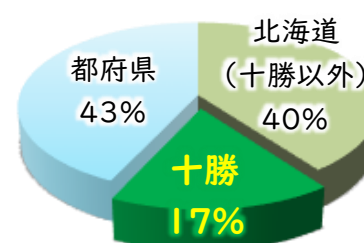
十勝の畜産 全国及び北海道との規模比較

区分	乳用牛 飼育頭数	生乳 生産量	肉用牛 飼育頭数
全国	1,322,000 頭	7,324 十	2,258,000 頭
北海道	810,699 頭	4,175 十	515,774 頭
北海道の割合	61.3%	57.0%	22.8%
十勝	234,400 頭	1,259 十	221,470 頭
十勝の割合	17.7%	17.2%	9.8%

乳用牛 飼育頭数



生乳 生産量

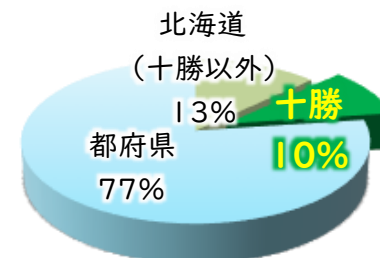


資料) 2020農林業センサス

<中小家畜の動向>

肉豚	「放牧養豚」、「ホエー豚(チーズ製造時に出る水分)」、「モール豚(モール温泉を飲用)」など地域ブランド化
羊肉	北海道は全国の約6割を占めており、十勝は全道一の主要産地
採卵鶏	HACCP方針の導入、道産飼料米の活用など食の安全・安心の取り組み
肉用鶏	「新得地鶏(北海道立総合研究機構が開発)」などのブランド化

肉用牛 飼育頭数



※ 全国和牛能力共進会

5年に一度の“和牛のオリンピック”と称される「全国和牛能力共進会」が、第13回目として令和9年8月に開催されます。北海道では初開催となり、音更町で種牛の部、帯広市で肉牛の部が予定されています。

十勝農業の概要 ～ 農産物（加工：乳業工場）

- 十勝地域の乳業工場は、大手5工場があり、飲用牛乳、ナチュラルチーズ、アイスクリーム、その他バター、ヨーグルト、生クリーム等を製造
- よつ葉乳業（株）では、平成25年から十勝産乳原料を100%使用したソフトクリーム原料「よつ葉北海道十勝ソフトミックス」を台湾へ輸出。また、平成27年に十勝主管工場チーズ生産施設を完成し、ハラル製品をシンガポール等へ輸出、人口が伸びているアジア圏への輸出が拡大しています。

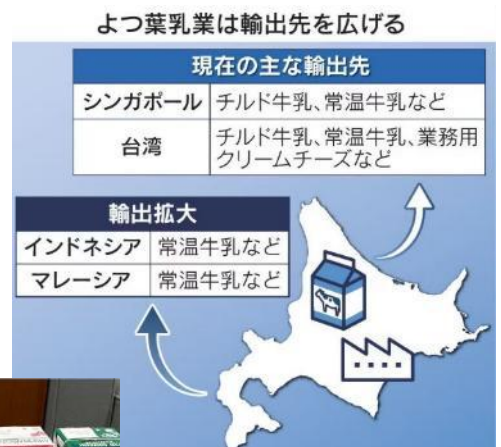
主要な乳業工場

名称	所在地	主な製造品目
よつ葉乳業(株)十勝主管工場	音更町	牛乳類、ヨーグルト、チーズ類、バター類、アイスクリーム、粉乳類、生クリーム
雪印メグミルク(株)大樹工場	大樹町	ナチュラルチーズ
(株)明治十勝工場(明治十勝チーズ館)	芽室町	ナチュラルチーズ、生クリーム、脱脂乳
(株)明治十勝工場 本別工場	本別町	生クリーム、濃縮乳 ※1
十勝浦幌森永乳業(株)	浦幌町	牛乳類、生クリーム類、脱脂濃縮乳

資料：十勝の農業（十勝総合振興局）

※1 2027年9月以降は乳製品の生産を中止し、クーラーステーションとして稼働予定。

海外でも知名度の高い「HOKKAIDO」ブランドを生かし、賞味期限150日間の常温保存可能で海運で輸出できる利点。ハラル認証の取得も強みに。



資料：日本経済新聞 2025/2/7記事より抜粋



雪印メグミルク大樹工場で生産している「さけるチーズ」



よつ葉乳業(株)十勝主管工場で生産している「バター」「ヨーグルト」



(株)明治十勝で生産している「チーズ」

【参考】十勝の農産物 ～ 広がる多様な農産物（野菜・肉用牛）

○十勝農業の基盤は畑作4品ですが、それに加えて野菜や畜産、加工用農産物が地域農業を幅広く支えています。これらの品目があることで、十勝は全国有数の総合的な食料生産地域となっています。

< 野菜作付面積 >

令和6年産 面積単位：ha

品目	市町村名	作付面積	道内順位
だいこん	帯広市	234	1
	幕別町	162	3
にんじん	音更町	509	1
	幕別町	391	4
ごぼう	芽室町	101	1
	帯広市	66	3
ながいも	幕別町	353	1
	帯広市	338	2
	芽室町	323	3
	音更町	73	4
ゆりね	芽室町	5	2
	幕別町	5	4

資料：北海道野菜地図（その49）令和8年3月

令和6年産 面積単位：ha

品目	市町村名	作付面積	道内順位
キャベツ	芽室町	85	1
	鹿追町	82	2
はくさい	幕別町	52	5
	清水町	34	2
レタス	幕別町	26	4
ねぎ	音更町	38	4
ブロッコリー	音更町	25	5
えだまめ	中札内村	154	5
	芽室町	497	1
	帯広市	455	2
さやいんげん	芽室町	87	3
	中札内村	157	1
さやえんどう	中札内村	149	2
	帯広市	5	3

畑作4品以外の多くの野菜等も、道内5位以内を占めています！

豆缶詰のセット(JA上士幌)

冷凍いんげん(JAめむろ)



近年は加工食品としての需要も増加
店頭販売だけでなく、通信販売でも取り扱いが拡大

< 十勝産肉用牛を使用した加工品 >

市町村名	地域	産出額	道内順位
士幌町	十勝	1003 千万円	1
清水町	十勝	764 千万円	2
上士幌町	十勝	564 千万円	3
佐呂間町	オホーツク	509 千万円	4
新得町	十勝	463 千万円	5

資料：令和7年度なんばんBOOK

十勝の道内シェア
42.6% (1位)



十勝和牛

十勝の広大な大地が育んだ、とろける旨みの十勝和牛、赤身の豊かな味わいが魅力の十勝若牛。その品質と味わいは、世界に向けても拡大しています。



十勝若牛 (JA十勝清水町)

【参考】十勝の農産物 ～ 十勝からの輸出

○ 政府の農林水産物・食品の輸出額目標～2030年に5兆円（2025年輸出額実績：1兆7,005億円）

○ 十勝地域は野菜類、乳製品で輸出を展開しており、台湾、アメリカ、シンガポール等へ輸出

北海道 輸出重点品目の輸出産地リストマップ



帯広市川西農業協同組合（帯広市）
ながいも：台湾、アメリカ、シンガポール等



十勝清水町農業協同組合（清水町）
にんにく：台湾、東南アジア各国



よつ葉乳業(株)（音更町）
ソフトクリーム原料：台湾
チーズ：シンガポール等

資料：北海道農政事務所より

※事業者名、地域名は「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略に基づく輸出重点品目の輸出産地リスト」に基づき記載しております。 https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/e_action/jyusyu-su-list.html

【参考】十勝の農産物 ～ 十勝ブランド登録制度の取り組み

- 十勝ブランドとは、十勝の材料を使った十勝産加工食品をPRする「十勝ブランド登録制度」です。パンやお菓子、チーズや乳製品などなど、魅力たっぷりの商品が多数登録されています。
- 登録及び審査基準は、主原料が十勝産、十勝管内での製造、十勝ならではの価値や特徴を踏まえ、5段階の★印が付与される認証方式が特徴です。



※ 認証を受ける生産者で構成されている「十勝ブランド認証機構(事業主体)」で、品目毎の部会で認証基準の策定・管理を実施

十勝ブランドの認証店舗(一部を記載)

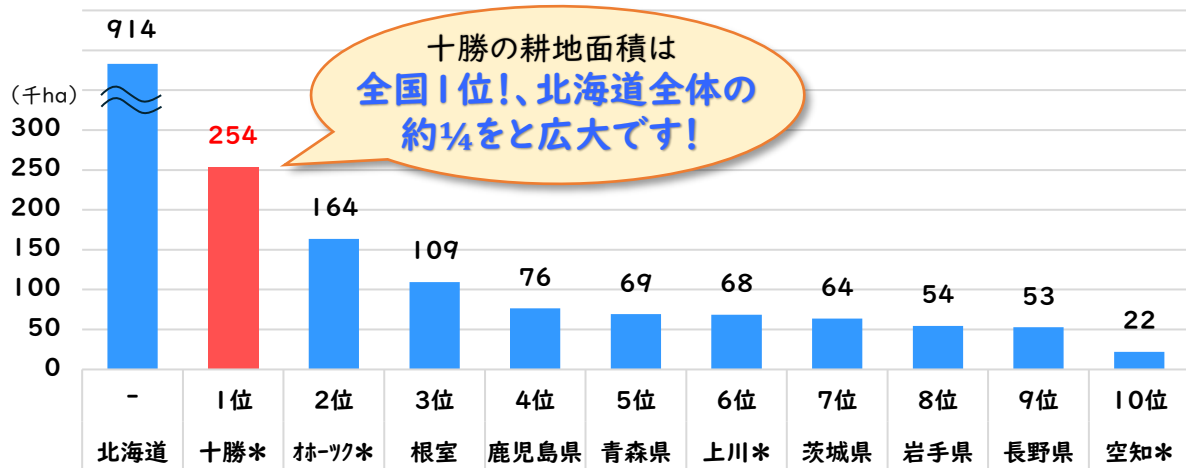
資料:十勝ブランド登録制度HP 登録店一覧

品目	安心の基準	認証店舗一覧(R8年3月時点)
パン 9工房	<ul style="list-style-type: none"> ・小麦十勝産100% ・全原料の80%以上十勝産 	ますやパン/麦音(帯広市)、コルバ林製パン(帯広市)、高橋菓子店(足寄町)、UNCLE MOORSEN'S(帯広市)、花ねこパン屋(鹿追町)、あさひや(芽室町)、手づくりパンの店じゅん&まき(清水町)、ぱん本舗「くーぷ」(大樹町)、カフェロゼッタ(帯広市)
お菓子 9工房	<ul style="list-style-type: none"> ・主原料十勝産100% ・全原料の80%以上十勝産 ・合成保存料・合成着色料不使用 	お菓子のまさおか(芽室町)、柳月(音更町)、たいやき工房(帯広市)、くり豆本舗(本別町)、高橋菓子店(足寄町)、峠のテラス(新得町)、トカチ輪菓家(帯広市)、前田農産食品株式会社(本別町)、松月堂(本別町)
チーズ 7工房	<ul style="list-style-type: none"> ・生乳十勝産100% ・他原料も全て十勝産(十勝で生産のない塩などは除外) ・添加物一切不使用 	チーズ工房NEEDS(幕別町)、共働学舎新得農場(新得町)、十勝野フロマージュ(中札内村)、キサラファームチーズ工房(清水町)、十勝品質事業協同組合(音更町)、広内エゾリスの谷チーズ社(新得町)、十勝加藤牧場(帯広市)
乳製品 14工房	<ul style="list-style-type: none"> ・主原料十勝産100% ・全原料の80%以上十勝産 ・添加物は、天然物由来の増粘安定剤、寒天、ゼラチンのみ 	チーズ工房NEEDS(幕別町)、十勝野フロマージュ(中札内村)、あいす屋(芽室町)、十勝ミルクキー(帯広市)、広瀬牧場ウエモンズハート(帯広市)、あすなろファーム(清水町)、十勝しんむら牧場(上士幌町)、陸別町(陸別町)、広内エゾリスの谷チーズ社(新得町)、十勝アルプス牧場(清水町)、北広牧場(新得町)、十勝加藤牧場(帯広市)、田口畜産(幕別町)、菊地ファーム(広尾町)



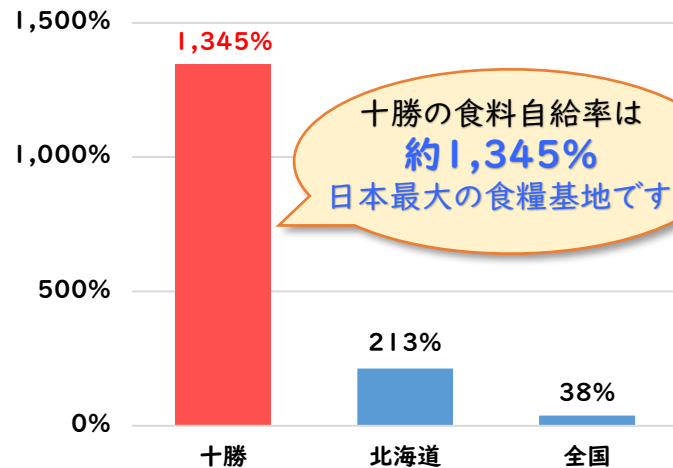
【参考】十勝の農産物 ～ 日本最大の食料基地十勝

耕地面積(畑)の道内及び都府県上位比較(令和7年)



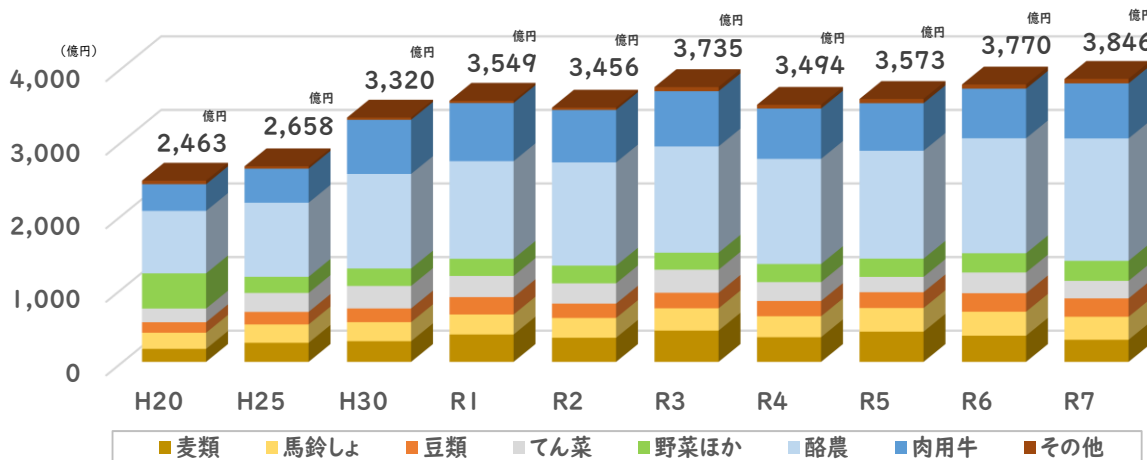
出典: 農林水産省統計部「農林水産関係市町村統計」より集計。
(北海道の振興局単位を反映した集計整理となります。)

日本の食料自給率(令和6年)



出典: 【全国】農林水産省、【北海道】農林水産省(北海道農政事務所)
【十勝】フードバレーとかち推進協議会資料
なお、食料自給率はカロリーベースの値となります。

十勝地域の農協取扱高(農業産出額)の推移



資料: 十勝地区農業協同組合長会、十勝農業協同組合連合会、十勝総合振興局産業振興課調べ
(農協取扱高には商取引高を含んでいないため、従来の農業産出額とは異なる。)

十勝農業を取り巻く動向

成長と課題: 取扱高は過去最高水準を更新中。一方で、気象リスク、コスト高騰、農家減少と労働力不足への対応が急務。

農業DXの推進: 日本最大の食糧基地として供給責任を果たすため、「農業DX」による省力化と生産性の向上を図る必要がある。

基盤整備: 厳しい経営環境下でも十勝の強みを発揮するため、これらの課題や取り組みに対応した農業基盤整備を進めています。

資料名：十勝農業の概要（令和8年5月更新版）

本資料に関するお問い合わせ先

北海道開発局 帯広開発建設部 土地改良情報対策官

〒080-8585 帯広市西5条南8丁目

TEL 0155-24-3192

FAX 0155-24-0743

URL <https://www.hkd.mlit.go.jp/ob>